

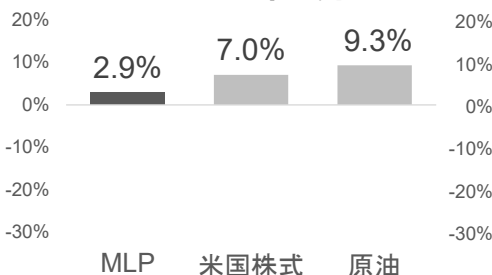
■ 当月のS&P MLP 指数の動き

8月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比▲5.3%と3カ月ぶりの下落となりました。

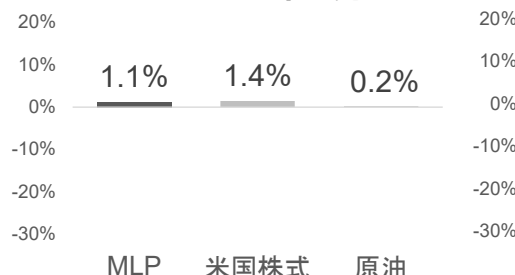
1日に、トランプ米大統領が対中制裁関税第4弾を9月1日に発動すると、突如発表したことなどをを受け投資家のリスク回避姿勢が強まり、米国株式、原油価格ともに下落する中、MLPは中旬にかけて下落基調となりました。その後、原油価格の堅調な推移などを背景に、上昇基調となる場面もあったものの、米中対立への警戒感や世界的な景気先行き懸念などを背景に再び下落傾向に転じ、S&P MLP 指数は、27日に、今年1月以来の安値を付けました。

■ 過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)

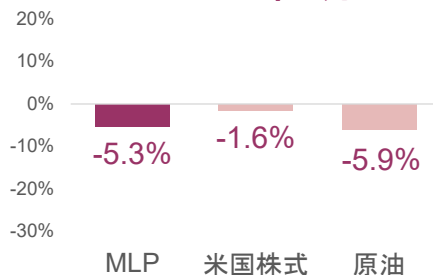
2019年6月



2019年7月



2019年8月



■ 主要指標の動き

MLP: S&P MLP 指数、米国株式: S&P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	2019/8/31	2019/7/31	2019/5/31	2018/12/31	前月末比	3カ月前月末比	前年末比
S&P MLP 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	4,573.97	4,832.50	4,644.35	4,047.51	-5.3%	-1.5%	13.0%
プライスリターン	1,350.32	1,444.65	1,398.93	1,268.20	-6.5%	-3.5%	6.5%
S&P 500種 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	5,898.23	5,993.17	5,519.27	4,984.22	-1.6%	6.9%	18.3%
プライスリターン	2,926.46	2,980.38	2,752.06	2,506.85	-1.8%	6.3%	16.7%
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	773.39	841.26	783.86	757.14	-8.1%	-1.3%	2.1%
プライスリターン	422.09	462.47	432.10	424.07	-8.7%	-2.3%	-0.5%
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,452.04	1,408.21	1,373.96	1,190.35	3.1%	5.7%	22.0%
プライスリターン	343.65	334.13	328.46	288.67	2.8%	4.6%	19.0%
米国ハイイールド債 (ICE BofA Merrill Lynch・米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))							
トータルリターン	1,371.18	1,365.85	1,326.37	1,233.61	0.4%	3.4%	11.2%
プライスリターン	76.48	76.58	75.14	71.75	-0.1%	1.8%	6.6%
米国10年国債利回り							
	1.49%	2.01%	2.12%	2.68%	-0.52	-0.63	-1.19
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	55.10	58.58	53.50	45.41	-5.9%	3.0%	21.3%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	2.29	2.23	2.45	2.94	2.3%	-6.9%	-22.3%
米ドル (対円)							
	106.28	108.78	108.29	109.69	-2.3%	-1.9%	-3.1%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ 当月の出来事いろいろ

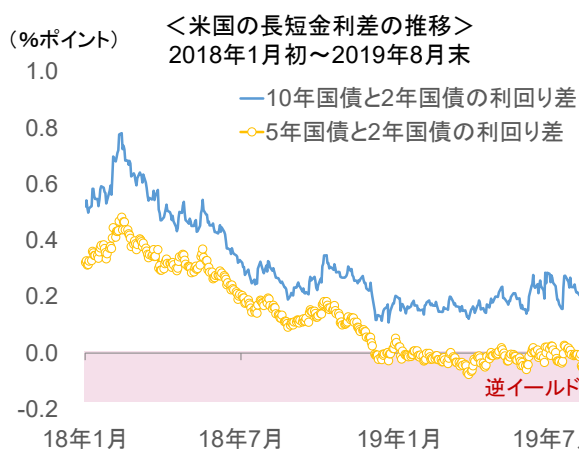
- MLPの4-6月期決算発表は、ネガティブサプライズとポジティブサプライズが入り混じる状況だった。
- 原油価格は、米中対立の激化懸念などから、月初下落基調となった。7日、EIA(米エネルギー情報局)の週間統計において、原油在庫が予想に反して増加したことを嫌気し、WTI先物価格は前日比4.7%下落、1バレル=51.09米ドルに。しかしながら、8日には、原油安抑制に向けてサウジアラビアが主要産油国と電話協議を行なっているとの報道があったことから反発。WTI原油先物価格は、4営業日続伸し、13日に57.1米ドルとなった。ただし、14日、ドイツや中国の低調な主要経済指標を受けた世界景気の先行き懸念などから、米国債において2年債と10年債の間で一時、利回りの逆転(逆イールド)が生じたことを背景に景気後退が意識され、原油価格は再び下落基調に。ただし、月末にかけては、原油需給の引き締まりが意識されたことなどから、原油価格は堅調な推移となった。
- OPEC(石油輸出国機構)が16日に公表した8月の月報では、年内の原油需要の伸びの見通しが下方修正されると同時に、来年は若干の供給過多になるとの見解が示された。
- OPECとOPEC非加盟国による減産監視委員会は27日、7月の減産遵守率が159%と前月から上昇したことを発表、また、2019年後半の原油在庫が大幅に引き下げられるとの見通しも示した。なお、28日に発表された米週間統計では、原油在庫が予想以上に減少した。

■ 今後の注目点

- 世界景気の先行き不透明感が、引き続き、原油価格上昇の重石となることが見込まれる。
- 米中対立が激化し、世界的な景気減速懸念が強まるようであれば、需要減少への警戒感などから、原油価格下落の要因に。一方、中東情勢が緊迫化したり、ベネズエラの産油量減少懸念が強まるような場合は、供給減少への警戒感などから、原油価格の下支え要因となることが見込まれる。

■ 米長期金利の低下

米中対立の激化や中国や欧州における経済指標の悪化などを受けて、世界景気の先行きに対する警戒感が強まる中、米金利は一段と下落し、米国債において10年国債と2年国債との間で長短金利の逆転(逆イールド)がみられました。なお、米金利の低下により、利回り面からみたMLPへの投資妙味は、足元で高まっているとみられます。



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

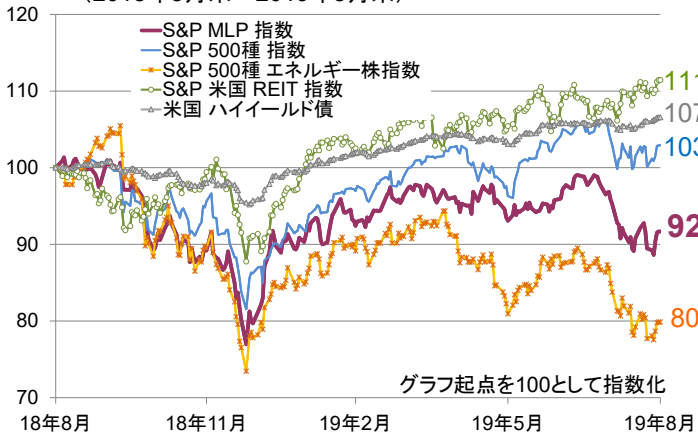
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

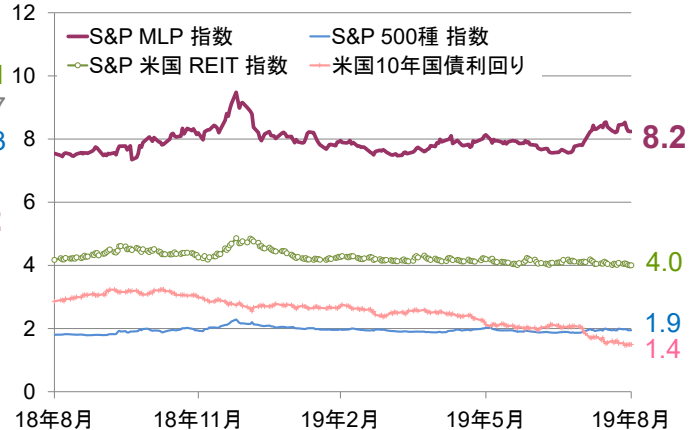
■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン) (2018年8月末～2019年8月末)



■各資産の利回り

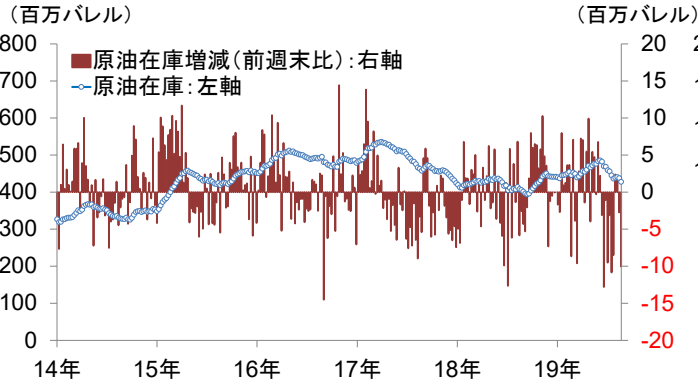
(%) (2018年8月末～2019年8月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

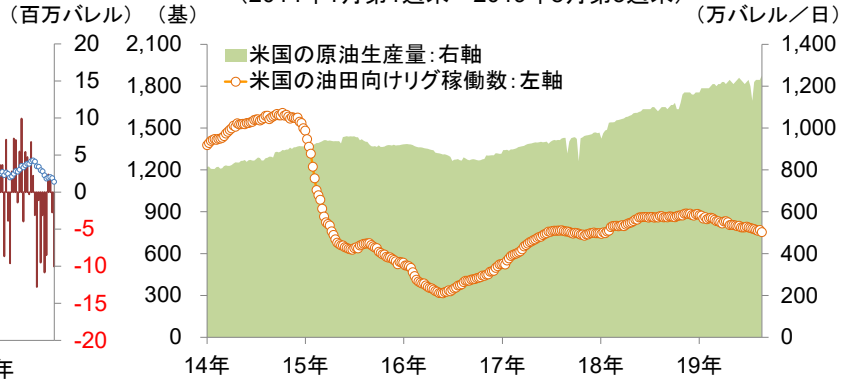
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2019年8月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

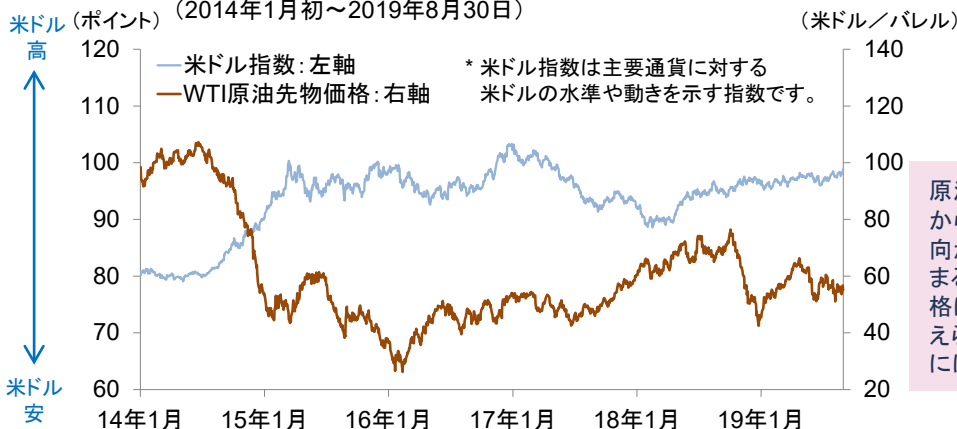
(2014年1月第1週末～2019年8月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2019年8月30日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。